

重要伝統的建造物群保存地区における 所有者の保存・継承意識に関する研究

建築計画研究室 近藤耀太

2019年2月提出

1. 研究の背景と目的

高度経済成長期における歴史的な町並みの消失を受け、文化的価値の高い町並みの保存、および観光資源として活用するために、重伝建制度が創設された。

本研究では2017年2月に重伝建地区に指定された、徳島県海部郡牟岐町出羽島を研究対象地域として指定から現在までの重伝建地区の①修理・修景事業の状況、②重伝建の趣旨への住民理解を深めるための働きかけ、③重伝建地区内で2018年度に修理・修景を行った持ち主の意識などを明らかにしていく。そして、国内の過疎地域の歴史的町並み保全のために、建物の保全を通じ、人が住み続けることで、地域を存続させるための課題を考察していく。

2. 出羽島重伝建地区における修理・修景事業の実態

修理・修景は建造物の保存計画を行っていくにあたり、歴史的風致を維持していくことを目的としている。その際に適用される修理基準・修景基準・許可基準は2017年の選定前に行った保存対策調査の結果をもとに決定されたことが牟岐町教育委員会へのアンケート調査よりわかった。修理基準に基づいた工事であれば、対象経費の90%を上限に補助金が支出され、修景基準に基づいた工事であれば、対象経費の2/3を上限に補助金が支出される。

修理・修景事業の現状を調査し、課題として工事待ちの年数の問題が挙げられる。工事希望者の数に対して予算がないために第1回の受付での応募は4年程かけて工事している。予算が少ないために1年間の工事件数が少ないと考えられるが、表3を見ても分かるように2018年度に予算が大幅に増加し、牟岐町の規模を考えると予算は十分に確保されている。工事待ちの年数が長いようにも感じるが、一般的に修理・修景工事は10~20年かけて少しずつ行われるため、事業の進捗としては順調ではないかと思われる。予算から見ると十分確保されているが工事待ちの時間があるのは工事希望者が予想を上回ったからではないかと考える。少しでも工事待ちの時間短縮するには予算内で行える工事件数を伸ばす工夫が求められる。

また、課題として地理的な問題が挙げられる。出羽島の地理上交通手段が船しかない。島内に車は走っておらず、道は決して広くないので、重機を用いての大掛かりな工事ができない。そのために人力で少しずつ時間をかけて作業するしかなく、年間を通して行える工事件数に限界がある。結果、人件費が多くかかり、1件あたりにかかる工事の時間も長くなる。重機を用いての工事が可能になればその分人件費が浮き、1年間に行える工事件数が増える可能性がある。そのため、出羽島への運搬方法など重機導入が今後の課題であると考えられる。

表1 第1回受付の内訳

	工事内容	問い合わせ	応募件数
建築物	修理	17	12
	修景	2	2
工作物	修理	0	0
	修景	0	0

表2 工事件数

		2017年度	2018年度	2019年度
建築物	修理	2	4	3
	修景	1	1	0
工作物	修理	0	0	0

表3 予算と実績

	2017年度	2018年度
予算	23,000,000	40,000,000
実績	21,293,000	

3. 出羽島重伝建地区の将来について

2017年度に修理・修景工事を行った3名の方に2018年の8月と10月にヒアリング調査を行った。調査内容は大きく分けて、「建物について」「居住歴について」「修理・修景工事内容について」「将来について」の4項目である。

その中で将来に関しては表4のような回答が得られた。A氏、B氏のように島で生活をし、子供も島で育った場合だと特定物件の相続は決まっておき、住居や別荘としての利用が期待できる。C氏のように島外で生活しているが、相続する人がおり、引き続き別荘として利用するという場合もある。今後、集落の存続のためにこのような島外の人が建物を利用する事例があるかもしれない。C氏のように物件を長期的な別荘などで利用してくれる島外の人が増えると建物がのこり、集落の存続にもつながると考えられる。しかし、Aさんの回答のように、島外の人に移住してくれると人口は増えるが今

表4 出羽島の将来に関する住民意識

	A氏	B氏	C氏
Q1 世帯主の次の世代で住む人の有無	相続人は決まっているが住むかは未定	娘の旦那さんが趣味のため利用するかもしれない	—
Q2 住む人がいない場合、相続する	孫が3人いる	いない	息子
Q3 相続する人がいない場合、この建物をどうする	どのような形でも存続させたい	島の人に譲って民宿や交流施設として使ってもらおう	息子が別荘として使う
Q4 あなたが描く出羽島の未来像	赤の他人ではなく出羽島の人が住み続けてほしい (出羽島の雰囲気を理解し、引き継いでくれる人や出羽島で育って出羽をよく知る人)	特定物件を遺し、後世に伝えてほしい	高齢者が多いため若者が住んだり定期的に來たりできるような環境を今の出羽島の良さをなくさないものをつくってほしい (砂浜、釣りなど)

の出羽島のように、出羽島で生まれ育ち、出羽島のことをよく知る人間が減っていき出羽島らしさが失われてしまうという懸念がある。出羽島らしさを失わず、Cさんの回答のように高齢者を支えていける環境にするには仕事で島外に出た人のUターンが増えるような対策が必要であることが明らかとなった。

4. 過疎地域の重伝建地区における課題

高齢者が多く、人口減少が進んでいる出羽島ではまちなみや集落の保存によって、魅力を発信し、島の外部から人を集める必要がある。そのために修理・修景工事によって出羽島の良さや歴史的な価値を遺し続けなければならない。ヒアリング調査の結果、工事を行った理由について、「重伝建地区制度に以前から関心があった」「他の島民に島の建物の歴史的・文化的価値を理解してもらうため」などそれぞれの背景は違うが、出羽島の魅力を後世に遺し、集落の活性化を願っていることがわかった。修理・修景事業はその中核を担うものであり、予算の確保、重機を使用した工事の実現などの課題への対策が重要である。

また、集落存続のために人の問題もある。まずは島の雰囲気を変えないことである。集落存続のために商業施設・観光施設を作ったり、Aさんの回答のように出羽島のことを全く知らない人ばかりが住んだりしても集落の存続とは言えない。

次の段階として仕事である。出羽島に住むにしても島内で仕事をして生活を営むのは難しい。Uターン者増加のための対策の先に今後出羽島で育っていく世代が島外で仕事をしながら島に住み続けるための工夫が必要となってくる。

本研究では出羽島は重伝建地区に選定されてから日が浅く、修理・修景工事に関して初年度分しか調査できなかった。しかし住民は集落の保存に前向きであることが分かった。今後、初年度の工事の住民に与える影響や、島の住人確保のための対策などを継続的に調査する必要がある。